

もしもの水害に備える1

▶ どこに避難するか？

洪水ハザードマップでは大雨により河川が氾濫した場合、浸水する可能性のある区域を、各河川管理者から提供された浸水想定区域図を基に表示しています。自分の現在地を探し、どの程度浸水するかを確認し、避難に役立ててください。

避難のタイミングと行動

避難開始時の状況により次のような方法があります。

避難勧告等が発表された時

安全に
避難できる

浸水が始まっており、
浸水区域の外への避難が困難

水平避難



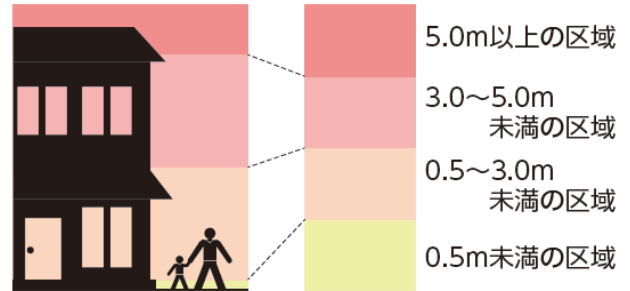
危険区域より出て安全な避難所等へ避難しましょう。

垂直避難



無理な避難は避け、建物の上の階へ避難しましょう。

想定新浸水深の区分



「福島市洪水ハザードマップ」は、大雨により河川が氾濫した場合、浸水する可能性のある区域の水深を色別に表示しています。

大雨の基準は、阿武隈川、荒川、松川については、想定し得る最大規模降雨（概ね1000年に1度）、大森川、濁川、八反田川などは計画規模降雨（5~50年に1度）の大雨を想定しています。

またマップ面では、浸水深が3mを超える区域や、家屋の倒壊流出する恐れのある区域（家屋倒壊等氾濫想定区域）を特に早期水平避難が必要な区域として表示しています。

なお、浸水想定区域はあくまでもシミュレーションに基づくものです。着色されていない区域でも、絶対安全というわけではありません。大雨のときは、気象情報に十分注意してください。

▶ 垂直避難後の避難生活が長期化した際の問題点

建物の2階以上へ「垂直避難」した場合、浸水が長期化し、次のような問題が発生する恐れがあります。



問題点

- 洗濯・風呂・水洗トイレが使えない。
- ナマ物の保存ができない。
- 食料の調達ができない。
- 空調設備が使えない。
- 情報収集ができない。
- ゴミの処理ができない。
- 携帯電話の充電ができない 等

生活環境の悪化する恐れもありますので、**早め水平避難**を心掛けてください。